

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年2月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2770901664
法人名	社会福祉法人 高志会
事業所名	れんげ荘グループホーム
所在地	高槻市三島江4丁目15番5号 (電話) 072-679-1128
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 1月 22日

【情報提供票より】(平成 19年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	18人	常勤	17人, 非常勤 1人, 常勤換算 17.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1階 ~	3階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> (300,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="checkbox"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	円 /	1ヶ月当たり	48,000円

(4) 利用者の概要 (平成 19年 12月 1日現在)

利用者人数	26名	男性	4名	女性	22名
要介護1	5名	要介護2	10名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	66歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医誠会病院、第一東和会病院、北摂病院、藍野病院、古賀整形、吉川歯科、西田眼科、よしかわ皮膚科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人高志会が、地域の方々の要望で設立したグループホームです。昔ながらの閑静な住宅街にあり、明るい食事室の窓からは、淀川の土手が目の前にひらけ、散歩する人々の姿などが利用者を和ませています。家族会も開設当初からあり、夏祭りや誕生日会に招待したりなど、交流も盛んです。地域住民のホームへの理解も深まり、夏祭りにやぐらを組んでもらったり、畑を耕す際には野菜の栽培の仕方などを教えてもらったりしています。近隣の方がお茶を飲み立ち寄られることもあります。利用者懇談会を2ヶ月に1回開催し、利用者の希望や意見など聞いています。利用者の状況把握を記録し、職員間で共有しています。感染・防災・防火などには特に注意を払って日常生活の中で実践しています。3つのユニットごとにそれぞれ担当の職員が工夫し、壁面に絵や写真、手作りの季節感あふれる創作物を飾り、利用者や家族の目を楽しませています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価の結果については職員間で検討し、また運営推進会議でも話し合いがされました。施錠の件については家族へのアンケートをとって検討していますが、家族からは安全面を考慮する事への要望が強く、現状維持が求められました。改善策として、見守りのできる時間帯は鍵を開けています。また、利用者が外出する際は付き添って出かけるようにしています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価項目については、職員に各項目について周知した上で、常に検討しながら記入し、それを管理者等でまとめました。全職員が評価について認識しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) グループホームについての説明を行い、その他には火災や水害、地震など災害対策について話し合いました。避難場所の確認、火事が起きた際の避難方法、救出方法などを検討し、また地域でできるサポート体制についても話し合いがされました。年1回3日間の救命訓練に参加すれば応急手当普及員の資格を得ることができるということを教えてもらいました。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 苦情を相談する方法について分かりやすく図式化し、玄関に掲示しています。また玄関脇に意見箱を設置し、家族の訪問時には苦情対応や相談にもついています。家族会も結成されていて、1年に1回交流会を開催しています。お花見、夏祭り、月見会等、行事ごとに来訪してもらい、いろいろな話を聞く機会を持っています。誕生会には家族を招待しています。運営推進会議にも家族会から参加を得ており、今後のホーム運営に活かせるよう検討しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入しています。また、地域の「花一杯運動」や「れんげ祭り」「コスモス祭り」のほか、防災活動の会に参加、清掃活動での交流などを行っています。また、小学生や中学生にボランティアの登録を募集し、受け入れを行い、ちぎり絵等の活動や話し相手をしてもらったり、小学生と交流して作ったおはぎを学校に届けたりしています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「常に利用者の立場にたって、心身両面にわたる幅広いサービスを提供し、心豊かな自立生活を送って頂けるよう自身も心豊かになるために努力し、共に成長していく。ほほえみと思いやりと助け合いの心に満ちたふるさとのぬくもりを提供するとともに、24時間安心の光をそそぎ、地域に開かれた灯台になることをめざし、社会に貢献する。」を掲げ、地域に密着した内容となっています。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と職員の行動基準10項目を定めホーム内のリビング(オープンカウンターのうしろ)など日常的に目に触れる場所に掲示しています。職員、利用者、家族にも浸透しています。毎日のミーティングや申し送りの際、理念を復唱して常に確認しあっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	事業所は昔ながらの住宅街にあり、地域の一員として気軽に話し合え訪問してもらえるなどの関係作りができています。地域の方には夏祭りにやぐらを組んでもらったり、小学生が田植えから育てたモチ米を購入し、ホームで利用者と共に『おはぎ』を作り、小学校にプレゼントしたり、『花一杯運動』等季節ごとの交流があります。また、防災活動の会や自治会に加入しており、年2回の清掃活動にも参加し、地域の人々と交流を図っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員で共有するため、何度も話し合いの機会を持っています。月1回のフロアー会議やスタッフ会議でも検討しました。外部評価についても、運営推進会議で話し合い、家族へのアンケートを実施して、具体的な検討及び改善に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の規定を作成しています。また、会議議事録で出席者が確認でき、会議で得た意見をまとめて、サービス向上に活かせるよう事業所の取り組みの課題を職員間でも話し合っています。運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。会議の構成メンバーにホームを見学してもらい、利用者の生活の様子やサービス状況をみてもらう機会を設けています。会議の規定の中に『守秘義務』の項を加えることが望まれます。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の高齢福祉課職員は、よくホームに訪問しており、運営推進会議にも出席しています。また、市の相談員が定期的に訪問し、利用者とは面談して報告も受けています。市や消防署の職員が近くにきたからと時々立ち寄り関係作りができています。市の研修に参加してサービスの向上に生かしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの日常の様子・心身の状況等を『月次状況表』として各担当職員がわかりやすくまとめて報告し、確認の署名をもらっています。訪問の少ない家族には郵送しています。金銭出納についても領収書を付けて送付し、新任職員については家族の訪問時に紹介しています。行事については、年賀状で1年間の行事予定を知らせたり、口頭や白板などに書いたりして知らせています。法人全体の「れんげ荘たより」も発行しています。	○	利用者のうち一人だけ小口の預かり金を受け取っていますが、出納簿に確認のサインが求められます。訪問回数が少ない家族には月次状況報告と共に職員の異動や行事等を知らせる工夫が望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇に苦情や相談を受け付ける意見箱及び、面談できるスペースを設けています。また、家族の訪問時には要望や意見を聞く機会を作るなど、話しやすい雰囲気作りを心がけています。家族会は年1回開催し、要望を聞いています。また利用者の誕生日にはその家族も食事に招待して、一緒に食事をしながら交流を図っています。家族より利用者が昔使っていたピアノが寄贈され、ホーム内で活用されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動や離職については、できるだけ最小限に抑えています。3つの各ユニットの特徴に合った職員を配置し、利用者とのバランス良く良好な関係が保てるように配慮しています。異動があった際には、職員に1週間の以上引継ぎ時間を設けています。職員の異動については家族の来訪時に伝えていますが、訪問の少ない家族については、月状況報告等にて伝えるなど、もれなく家族に周知することが望まれます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画表が作成され緊急時対応・感染症・認知症などの研修が含まれています。外部研修、伝達研修等、職員全員が参加できるように配慮しています。新人研修については、マニュアルを作成、活用しています。また、研修報告書の提出もあります。伝達研修については、資料等を記録に残し、充実させることが望まれます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回市役所で開催される地域ブロック会に参加し、高槻市内のグループホームとの交流や介護事業所で作る『あゆむの会』に参加しています。またお互いの事業所へ見学に行ったりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに1週間程度の体験入居の機会を設けています。本人が馴染めるか、他者との関係はどうか、家族の意向はどうかなどを考慮する期間があります。面接に伺ったり、入居予定の家族の見学を受け入れたりして、十分な説明を行っています。また、利用者の家族にはできるだけ多く訪問していただけるようお願いして、スムーズな入居を支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に野菜作り（種からまいて間引くことなど）を教えてもらったり、書道の好きな方にはいろいろな場面で書を披露してもらったり、編み物の得意だった方には昔編んだセーターやカーディガンを着て見せてもらったりしています。また、歌の好きな方には舞台での発表の機会を作ったり、おしゃれが好きな方には法人特養の利用者と共にファッションショーへの出演の機会も作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の希望や意向の把握に努めています。利用者一人ひとりの思いや言葉、表情やしぐさなどから読み取った状況を記録し職員間で確認しています。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得て、入居に至るまでの様子について記述があります。今後は、アセスメントシートを充実させ、職員間で情報を共有することが望まれます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全体会議の場で、多くの職員参画のもと、介護計画が作成されています。利用者や家族の意見を取り入れて反映させています。また、アセスメントシートも作成し、利用者の生活歴、ライフスタイルについても記載されており、望まれる生活を取り入れています。作成した介護計画については、職員間で周知徹底を図っています。利用者や家族による同意のサインを得ています。作成された計画書の一部に捺印漏れがありました。すべての職員に確認されることが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は担当制で、1人の職員が2～3人の利用者を重点的に担当するようにしています。基本的には6ヶ月ごとに介護計画を作成しますが、日々の変化や状況が変わればその都度、カンファレンスを開き、利用者から話を聞き、家族からも意見を聞いて必要に応じた新たな介護計画を立てています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空きベッドがある場合、緊急時対応としてショートステイの受け入れを検討中です。認知症の方の家族支援や小学生に対する啓発活動も行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に診察を受ける利用者もいますが、内科医の往診が1ヶ月に2回、歯科医の口腔ケアを1回と受診1回、整形の受診を2回、そのほかに皮膚科、眼科などとも連携がとれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化した場合の対応については、看取り指針の説明を行い、看取りの同意書も用意しています。常に月次状況表にて健康状態を伝えていきます。医師、看護職員、家族と共に話し合い、意見を確認して支援をする用意があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが勉強会やミーティングの際にプライバシーに関する意識の向上を図り、また、日々の介護場面でも利用者を尊重した対応を心がけています。誇りやプライバシーには注意を払っています。「言葉使いは仕事の質のバロメーター」を掲げて、職員同士で注意しあっています。記録等は施錠のあるロッカーにて管理しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、急かすことなく支援しています。事業所としての日課はありますが、利用者の意向に合わせて支援し、見守ることにしています。気候や利用者の状態を確認しながら、常に臨機応変に取り組んでいます。利用者が過ごしやすい場所を把握して、椅子などの配置などに配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、3食とも併設施設で調理したものがホームに届きます。ごはん、味噌汁はホームで調理しています。菜園で収穫した野菜（きゅうりやトマト）が食卓に上ることもあります。食事については入居時に聞き取りを行い、好みや禁食材等にも配慮しています。朝食についてはご飯かパンが選べるようになっています。職員は利用者と同じ物を一緒に食べながら支援しています。配膳、食器洗いやテーブル拭きなど、それぞれが役割を持って楽しんでいます。また、ホーム内でてんぷらや焼きそば、鍋物を楽しむ機会も設けています。月に1回、メニューのリクエストにも応えています。また、食事についてのアンケートも行っており、好き嫌いの把握などに努めています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は夕食までと時間が限られていますが、利用者の望む時間に安心して入浴できるように日々確認を行っています。入浴日は月・水・金と火・木・土に分け、原則週3回入浴していただけるよう援助しています。また、足浴や母体法人の大浴場に行くこともできます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることを大切にし、声かけを行い小さなタオルをたたんでもらう、廊下の掃除、料理の盛り付け、食器の後片付けなど、利用者も笑顔で手伝っています。書道の好きな方には書いてもらう場面を提供し、洗濯物を干したりたたんだり、それぞれ活躍の機会があります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩は天候が良ければ出かけています。近くの公園や河川敷などですが、寒い時にはベランダを散策されている方もあります。デパートに行きたいと希望がある時は、ボランティアスタッフで対応したりしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の評価で改善項目になっていた施錠の問題では、運営推進会議で提案し議論してもらいました。また家族アンケートを実施して意見をいただき改善に向けて取り組んでいます。利用者や家族の安全と安心への配慮をしながら検討しているところですが、現在は見守りのできる時間帯のみ開錠しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防訓練（利用者も一緒になって口を濡れタオルで押さえ、体を低くして非常口まで行くなどの災害訓練）を月2回行っています。また地域の防災活動の会にも参加しており避難方法・避難場所の認識を高めています。運営推進会議の場でも災害対策について話し合い、協力体制を作っています。災害に備え水・米等を各ユニットで備蓄しています。職員は地区で行われる救急救命訓練に参加しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量について毎回確認し記録をしています。水分摂取量についても、毎回食事の折やティータイムの時に水分補給に気をつけ脱水予防に努め、記録をしています。栄養バランスについては、施設の栄養士のアドバイスを受けています。嚥下困難な方にはトロミをつけるなどの工夫をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食堂は採光も良く、周辺の庭や堤防や畑の緑が目の前に広がり、四季を通じて楽しめる雰囲気です。玄関や廊下等の床は、2重構造で弾力性があり歩きやすくなっています。壁などの空間には風呂敷や帯などの布地を使って季節の飾りつけが随所に見られ、家庭的で楽しい雰囲気を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には洗面所やロッカーが備え付けられています。畳を敷いてふみ机等を置いて過ごす方や、絨毯を敷いてソファで過ごす方など様々です。自宅で使っていたテレビや筆筒、仏壇、ポット、家族の写真などを持ち込み、居心地の良いように工夫していました。書道をされる方は今年目標を書いて飾っておられ、自室で日記を書いている方もありました。子どもとファックスのやり取りをされている方もいました。</p>		